



■使用評価マニュアル： CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト： CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	NOBUNAGA第一ビルディング新築工事	階数	地上13F
建設地	中村区名駅5丁目2902番、2903番、2904番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	350 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年8月 予定	評価の実施日	2021年12月24日
敷地面積	399 m ²	作成者	
建築面積	336 m ²	確認日	
延床面積	3,934 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE 1.1 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C:★	☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30% 標準計算	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア= 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

項目	スコア
音環境	4.0
温熱環境	2.5
光・視環境	3.3
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

項目	スコア
機能性	3.1
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 1.8

項目	スコア
生物環境	1.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア= 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

項目	スコア
建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.8
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.8

項目	スコア
水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.8
汚染物質回避	4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.2

項目	スコア
地球温暖化への配慮	3.5
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
オフィスビルとして、光環境や温熱環境、音環境といった室内環境の向上を重視した計画としたが、それだけでなく、維持管理等のサービス性能の確保や省エネルギー、省資源にも可能な限り積極的に取り組んだ。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
事務室の外壁は全面的にカーテンウォールとし室内の光環境を向上させているだけでなく、建具の遮音性を高め、Low-Eガラスの採用により断熱性も高めることにより、音環境や温熱環境も向上させている。	維持管理のしやすさへに対して配慮しているだけでなく、耐用年数の長い配管材料の採用、じゅうぶんな階高、天井高の確保等により、サービス性能の向上を図っている。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外壁の断熱やLow-Eガラスの採用により建物の外皮性能を高め、空調エネルギーの削減に配慮している。	節水器具の採用、リサイクル建材の採用等により省資源の配慮している。また、有害物質やフロン・ハロンの使用を回避してる材料を、可能な限り採用している。	燃焼機器の不採用、照明器具による敷地外への光害の抑制等により、敷地外の環境にも配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

NOBUNAGA第一ビルディング新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。